

# 山とスキー

第五十九號



札幌 山とスキーの會 發行

大正十二年七月廿七日第三種郵便物認可  
大正十五年三月二十八日印刷開始

大正十五年四月一日發行（每月一回）

◇すまりをて得を讀愛御の下殿宮父秩りよ號刊創は誌本◇

次目號九十五第



記事

國際スキー聯盟會議に國際スキー選手權大會の消息

在ノールウエー

木原

均

〔一〕

ディスタンスレースに就いて (續き)

岡村源太郎

〔二〇〕

—今シーズンを願して—

ストックホルムへの船中にて

在フィンランド

今泉

剛一

〔二七〕

彙報抄録

第二回全國中等學校スキー選手權大會成績・カナディアン  
ロッキー登山講演會・北大スキー部春季山岳行・寄贈圖書

寫眞版

タムス選手の飛躍振り (ラハテに於て)

五十キロ競技中のフィンランド選手

先頭サーリネン續いてネコ選手 (ラハテに於て)

大正十五年四月發行



タムス選手の飛躍振り (ラハテに於て)

## 國際スキー聯盟會議

### 國際スキー選手權大會の消息

在ノールウエー 木 原 均

#### 北 歐 第 一 信

諸兄（一月三十日）

一昨日（一月二十八日）ラハティ（Lahetti、此のラは獨乙流のニに當る）に着きました。人口は一万斗りの小さな町ですが氣持のよい土地です。日本人は私が二人目とまで珍らしがつて居ります。その上新聞に私の來る事が載つたと云ふ程の所ですから想像下さい。

早速江りに行つて見ましたが大きい斜面がないので物足りなく思ひます。シャンツエは今修繕中で誰も練習をして居ない。櫓を六米突程接ぎ足したためシャンツエを少し後の方へ下げた所、結果がよくないので更に改造中だとの事です。舊の臺では四十米突位飛べたものです。（今泉氏送付のプロファイル参照）

アンラウフバーンは大部分木造の櫓で組んであり、アウスラウフは一度平らになつてから（此處二十米突位）漸次二十五度位の急角度で少し上るやう出來てある。積雪は何米突あるか知らないけれども大体北海道邊と變りはない。よく寫眞で北歐の森林には木の枝が折れん斗りに雪の積つてのを見たやうにこゝもその通り。之は此の季節に強い風が少ないためであらうと想像されます。三、四月の事は分らないけれども、今迄は左程暴風がなかつたものと云へるらしい。（數年

前樺太に行つた時平らであるべき町中の往來で登つたり下つたり、山地を歩く思ひをした経験や、樺太の山が冬であり乍らト、松、エゾ松に雪が積つて居らず、夏の森林のやうに黒かつた事を想ひ出しました。此の風がないと云ふ想像は大體あたつて居るが、強い風ではないが、少しは吹く。けれども丁度樹氷が高山では木の枝、葉乃至幹にこびりつくやうな工合で仲々雪が落ちにくいらしい。デイスタンスレースのコースを見たけれどもタンネの林で登つたり下つたり或は右に或は左に、イツモ少しづゝ變化して行く道です。芬蘭は平地ですから登りと云つても極めて短かく、従つて下りも長くはない。コース全体を見たわけではないけれども白樺の小さいのがあつたり前述のタンネが相當密生して居るので見渡しいゝ所などはありません。タンネも大木は余りなく日本ならば三十年位のエゾ松位のがコースを通じて至る所にあります。コースの發表はまだではあるけれども今までの競技會に使ふコースはこんな工合です。芬蘭には初めてのハウクがどう云ふ風に走るか興味ある事として期待して居ります。

二月三日

大會出場の選手として瑞典がもう來て居ります。ジャムバーは新造のシャンツエを飛んで練習をし初めました。私がシャンツエに着いた時丁度飛んだのがスウェーデンの選手、身体が非常に動搖して手をつきました。二度目は物の美事に上体を幾分前方に屈した姿勢で手を大きく振つて飛び三十四米突程の所に下りました。此の人には氣の毒ですが轉がつた時に寫眞を撮して仕舞ひました。芬蘭の選手では Lindro (ヌオテイオ) 氏が小兵(五尺三四寸)ですがよく飛びます。上体を屈した姿勢ですがタムスのやうに上体が眞直に行かないで、幾分か屈んでネコゼであると自分で悲觀して居りました。スキーは前が幾分開きます。着陸する少し前にはスキーのテールが重なりあつて見へます。年齢僅かに二十二、三才、カザリ職、一晚吾々のもとに話しに來て呉れましたが残念乍ら芬蘭語より話さず充分質問が出来ませんでした。十時には必らず寝る事にしてると云つて九時少し前にかへりました。此の邊の競走用スキーは殆んど全部芬蘭産の樺で、ジャンプ用スキーはヒツコリ(子供用には矢張り樺材)を使つてます。競走用のは二米突四〇乃至二米突七〇位の細い(中央五、七、七、〇センチ、尖端七―八センチ、尾端六―七、五センチ位)ものです。(附言、南方諸國にては樺を用ひずアツシユ)

温度は一月二十八日の晩が零下二十餘度で、その前夜は今年のミニマムで零下三十五度、少しあたまかくなつて二月二日朝(十時頃)で零下十度。

コンGRESは汽車にて四時間計りのヘルジングフォースに先づ開かれ引續き大會中ラハテイにあると云ふのでワヅク今泉兄とヘルジングフォースに出かけた所、汽船が氷のためストックホルムからオボに到着せず一日延期ラハテイに開かれると云ふ。

あすは大會第一日、小生等のホテルには瑞典選手一行が居る。頗る靜か。町の人は賭でもして色々の想像を逞しくして居る事であらう。

二月四日

大會はイヨク開かれました。午前八時から軍隊の射撃競争です。之は芬蘭内のもですが参考のためかきます。ニコロのコースを三回まはつてその各々の圍に二百米斗り離れた的に向つて五發々射するのです。ですから全部で六キロを走つて十五發打つわけです。

午前十一時から三十キロのデイスタンスレースが初まりました。此の國の言葉とスウェデン語で説明したやうでした。(タイムの發表も二國語)多くは一分置きに出發(二分の時もあつた)コースは十五キロを二周するので各ステーションから電話でタイムを報告する度に芬蘭側の歡聲があがつて初めから芬蘭が優勢でした。

コンデイションは十センチ斗りの新らしい粉雪、温度氷點下十四度に東風が稍強く吹いて見物してゐる僕等には頗る寒い定刻より二時間半、前に四十名斗りの兵隊が赤旗をもつてコースを作りに出かけた。こゝでは兵隊がシヤンツエの改造の手傳ひから、場内整理、入場者の受付をして居ります。それが皆スキーが上手なんだから極く好都合に運ばらしい。

豫想では諾威の Hegge, Kjelbohn、芬蘭の Niku, Lappalainen 兄弟、Ratvio, Saarinen が有望だと云ふ話だつたけれど結果は表の通り芬蘭の全勝で、國歌吹奏裡に三つの芬蘭の旗が優勝柱に上つた。この時は觀衆一同脱帽、軍人は擧手の禮。

Niku は寒さのためよく力が出なかつたとも云ふし、五十キロ出場のため自重したとも云ふ。Hegge は第一周には相當

早かつたけれども二週の終りには四、五人に抜かれて美事に破れた。

スタートの平地は約二百米。丁度谷合の細い道を使つたもので直に上りとなり森の中に這入る。此の前見なかつた新しいコースで非常に楽しく思へた。タンネが生へては居るが左程密生してないので見通しは付かない迄も樂に走れ相に見へる。ゴールはジャムプ用ヒルを下つた下で痛快な直滑降でそこを通る。中には此の斜面を尻で這り下りるのもあつた。ラドヴィアの選手は二百米（よく分らないが凡そその位）で引きかへしたと云ふ程だつた。之は全く北歐のスキー界を知らなかつたものらしい。

標高差（全コースの高い所と低い所の高さの差）は恐らく高々六、七十米突と思ふ。何故かと云へばジャムプヒルの高さが五十七米（平地アウスラウフまで）でその位の山きり此の邊にはないから想像出来る。その記録が二時間二十分五十五秒。

午後二時半頃競技はスツカリ終了して三時三十分から此の町のラートハウスで IX Internationale Kongress が開かれた。

コングレスの事は極く簡單にかく。

會議はラハティの議事堂で二月四日から六日まで開かれた。初日に出席して見るともう各國の人達が來てる。之等の人達はすべてストツクホルムから一緒に皆知り合ひの仲である。此の事が若輩である僕にとつては非常にハンディキャツプになつた事を後で知つた。色々の人達に挨拶はしたが三十人からなので初めには名を覺へるつもりでも全部は覺へられず終りまで之で苦しんだ。

會場で渡されたものは手提皮靴（内容は左に）之は會議に必要な記録、協議事項その他一切が這入つてある。之は將來日本でもコングレス又は國際スキー大會（毎年どの國でも開く事が出来る。ノールウェーの代表にあつて日本で開いた場合、選手を送つて呉れるやうたのんだ、キツト二三人は來て呉れると思ふ）の開かれる時の参考のため内容をかく。仲々氣の利いたものだ。

マップを開けると Kansivälisen Hiiholliton (F. I. S.) IX Kongressi Suomeassa. 1926 と金文字で入れてある。

内容

- (一) 協議事項、書類
- (二) 外國行切手貼付風景ハガキ十一枚
- (三) 用箋二帳(大小)
- (四) スキーの本 Suomen Hiihto
- (五) 芬蘭照會の本

The Hand-woven Ríges of Finland

La Finlande.

Finlands Civil Guards

Die moderne bildende Kunst in Finland

The genealogy of Finland

Talvirehelinä Suomeassa

Geography of Finland

La vie sportive en Finlande.

(六) スキーやのカタログ

(七) 芬蘭ナイフ一本

(八) 鉛筆二本

(九) レターペーパー、封筒若干 (IX International Ski congress. 47. Feb. 1916 と英、獨、佛、瑞典芬語にて書く)。

(十) 参加徽章(芬蘭の紋章を入れたるもの)

(十一) 芬蘭旗(金屬製にて胸につけるもの、七寶様のものにて白地に青の十字即ち芬蘭國旗を畫く)

先づ参加の徽章をつけて席につく。席上には所屬國の國旗がある。勿論吾々の机には日章旗があつた。(書き忘れたがラートハウスの前にも参加諸國の旗が立てゝあつた。)



定刻午後三時半に開會が宣せられ、芬蘭の代表 Lovén 氏の挨拶（獨、佛）があり、聯盟のプレジデントであるホルムクビスト氏が答辭（瑞典、獨）を述べ各地よりの祝電を朗讀。

次に吾々の會議中最も氣にして居て、また興味をもつて居たコンGRES中に使用する國語の選定であつた。（之は委員中の重なる人が前以て集まつて決めて居た事は申す迄もない）獨乙語が用語となつた。出席國中、獨、奧、スイスの如きドイツ語を國語として居る國もあるし（特に英、米の代表者のなかつた事も英語を採用しない大きい理由ではあるが）簡單に獨語採用となつた。そのためプロトコルは當然獨乙語に極まつたわけである。

次に代表者の資格を審査したが之も各々の所屬團體からの推薦状態で事なく濟む。參加國は獨、スイス、スウェーデン、ノルウエー、チエコ、オーストリ、ポーランド、伊太利、佛、芬蘭、ルーマニア、日本の十二ヶ國。

カナダと日本のスキー聯盟の入會を承認するか否かをはかつて異議なく可決。各國の代表が起立して Willkommen の御辭議をした。僕は指名されて一言云つた。

加入團體で會費未納の三ヶ團體は爲替相場が非常に悪いと云ふので佛のゴルドフランでなくバピアフランで仕拂はせる事に可決。之などは小さい國がかなり多く加はつて居るので賛否を問ふと仲々小國の方に部がいゝ。

晩には芬蘭スキー聯盟の招待、儀式張つたもので吾々一貧書生にはかう云ふものは大變困つた。

二月五日

第二日は午前九時に複合競技の十五キロがあつた。その結果は別表參照。

スキーの王様であるハウクが二番になつて、ジャムプのマイスター・タムスが十三番であつた。此の日はコースは前日と大差ないらしく、唯だ前日は二回、此の日は一回走つたやうである。前日の寒さに *Zeig* その他芬蘭の選手さへ思はしくなかつたため、此の日は皆餘程厚着をして走つた。此の日からは毎日氷點下廿餘度に下つた。芬蘭にも稀れな寒い年である由。その位に寒さが強く天氣だけは絶好でも餘程選手は困つたらしい。走つた後の選手の頭髮は霜のやうにツララを下けて居た。

第二日のコンGRESは午後三時開會、此の日の重要な決議はオリンピックク（一九二八年）に参加決定。そのプログラムにはジャムブ、長距離、複合競技のみ。（開催地は投票の結果スイスに決定。）

二月六日



複合競技第一位  
J. Gröttumsbraaten

午前九時から Damen Haif があつたので見たかつたけれども國際のものでないから、コンGRESを此の時間から開催。各國スキー團體の年々に納める年金を決定（1. 日本、アメリカ、カナダ、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、スイスは年額三百ゴールドフラン、2. チェコ、埃、ポーランド、伊太利、佛、芬蘭は二百五十フラン、3. ルーマニア、ユゴスエビア、ウンガールは百フラン）その外競技規則を初から終りまで讀んで改正するは百フラン）その外競技規則を初から終りまで讀んで改正する。プレジデント以下の役員を選擧して次表が立つて之に和した。）

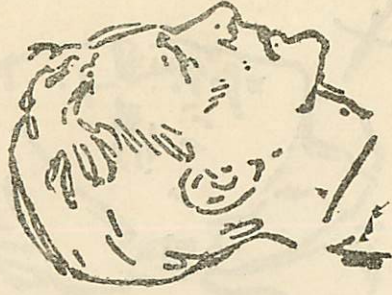
箇所は改正した。競技規約にシルシをつけてあつて記憶して居ないから書けない。プレジデント以下の役員を選擧して次表が立つて之に和した。）



複合競技第二位  
Thorleif Haug

- |               |   |          |             |          |               |           |           |
|---------------|---|----------|-------------|----------|---------------|-----------|-----------|
| Vorsitzender  | Holmquist (瑞典)  |          |             |          |               |           |           |
| Vice "        | Weber (瑞典)  |          |             |          |               |           |           |
| Sekretär      | Hamilton (瑞典)   |          |             |          |               |           |           |
| Mitglieder    | <table border="0"> <tr> <td>Erey (獨)</td> </tr> <tr> <td>Mimelle (佛)</td> </tr> <tr> <td>Rava (伊)</td> </tr> <tr> <td>Levachiti (芬)</td> </tr> <tr> <td>Bohkovski</td> </tr> <tr> <td>Schreiner</td> </tr> </table> | Erey (獨) | Mimelle (佛) | Rava (伊) | Levachiti (芬) | Bohkovski | Schreiner |
| Erey (獨)      |   |          |             |          |               |           |           |
| Mimelle (佛)   |   |          |             |          |               |           |           |
| Rava (伊)      |   |          |             |          |               |           |           |
| Levachiti (芬) |   |          |             |          |               |           |           |
| Bohkovski     |   |          |             |          |               |           |           |
| Schreiner     |   |          |             |          |               |           |           |

午後の複合競技のジャムプにはタムスが第一回に轉んで愛嬌を見せた。活動寫眞で見ると右側に轉んだのがどうもタム



複合競技第三位  
Einar Landvik

スらしい。見て居た時は餘り身體を前に屈し過ぎたのではないかと思つたけれどよくわからない。第二回目は三十九米突五飛んで最長不倒距離を出した。ハウクは地味に飛んで遠くは飛ばない。ジャムプだけの競技の成績を見ても分らでせう。

ジャムパー中サツツの動作をする時後方に手を振るのが澤山あります。一流の人達はこんな事をしないやうですが。タムスの此の日の第二回は所謂タムス式の屈身姿勢をしません。

複合競技の結果は別表参照。

私のヘルシングクオース滞在は色々の事で永引きました。あすは立ちますから之で第四日の50キロと、ジャムプの競技の事は結果だけにします。今夜は大會の活動寫眞を見ました。よくとれてますが矢張りシヤモニーの時のやうにツアイトルツベがないので駄目です。50キロ、ジャムプの成績参照。(二月十日)

### F. I. S. 出薩第九回國際スキ一選手權大會成績

1926年 2月 4—7 日に到る Finland. Lahti にて開催

30 km. (26年 2月 4日 11a.p. 開始)

	時	分	秒	出發番號
I. Matti Raivio (Fd)	2	20	55	(14)
II. Tauno Lappalainen (Fd)	2	27	13	(4)
III. W. Saarinen (Fd)	2	27	34	(25)

IV	G. Jonsson (Sd)	2	28	27	(19)
V	S. Äström (Sd)	2	31	27	(7)
X	O. Hegge (Ny)	2	37	14	

参加者 28名 内 Fd. (Finland) 13名 Ny. (Norway) 2名 Sd. (Sweden) 7名  
Tsk. (Tshekko-Slovak) 4名 2名不明

15km. (複合競技) 26. 2. 5. 9a.p. 開始

		時	分	秒	出發番號
I	Johan Gröttumsbraaten (Ny.)	1	20	27	(5)
II	Thorleif Haug. (Ny.)	1	23	27	(23)
III	Toivo Järvinen (Fd.)	1	27	50	(19)
IV	Asbjörn Elgstöen (Ny.)	1	29	01	(1)
V	Einar Landvik (Ny.)	1	29	25	(18)
VI	Toivo Nykänen (Fd.)	1	29	41	(29)
VII	George Österholt (Ny.)	1	30	00	(20)

参加者 30名 Ny. 7名 Sd. 4名 Fd. 14名 Tsk. 3名 Öst. 1名 Deutsch 1名

ジャムプ成績 (複合競技)

I	Otto Aasen (Ny.)	18. 327
II	Einar Landvik (Ny.)	17. 627
III	Johan Gröttumsbraaten (Ny.)	17. 125

IV	Thorleif Haug (Ny.)	16. 915
V	Toivo Nykänen (Fd.)	16. 583
VI	Esko Järvinen (Fd.)	17. 144
VII	Asbjörn Elgstöen (Ny.)	11. 560

此結果は全體の成績からデイスタンスレースの得點を引いて出した得點です。

複合競技結果

		得 點
I	Johan Gröttumsbraaten (Ny.)	18. 562
II	Thorleif Haug (Ny.)	17. 702
III	Einar Landvik (Ny.)	16. 563
IV	Otto Aasen (Ny.)	16. 418
V	Toivo Nykänen (Fd.)	15. 791

Senior. 10 km. (26. 2. 6. 9 a.m.) にて参加者 15 名とプログラムにあれば実施有無不明

Women 5 km. (open.) 26. 2. 6. 9 a.m.

		分 秒
I	Siiri Sievonen (Paavolan Kisa.)	24 10
II	Impi Raivio (Pihlajaveden Sk. Urh.)	24 14
III	Elsa Majaniemi ( " )	24 15

参加者 12 名

50 km. (26. 2. 7. 8.30 a.m.)

		時	分	秒	出發順位
I	Matti Raivio (Fd.)	4	18	18	(25)
II	Tauno Lappalainen (Fd.)	4	26	43	(9)
III	Olav Kjelbotn (Ny.)	4	26	47	(19)
IV	Ole Hegge (Ny.)	4	27	50	(26)
V	G. Jansson (Sd.)	4	29	55	(14)
VI	Tapani Niku (Fd.)	4	30	06	(3)
VII	Erkki Kämäräinen (Fd.)	4	30	54	(4)
VIII	S. Aström (Sd.)	4	39	50	(34)
IX	W. Saarinen ((Fd.)	4	44	14	(7)
X	Asser Autio (Fd.)	4	45	15	(30)
XIII	Anton Collin (Fd.)	4	49	32	(12)

參加者 34名 Fd. 16名 Ny. 4名 Sd. 6名 Deutsch. 1名 Tsk. 4名 不明 3名  
Ny. の Haug 出場せざりき。

Junier. 25 km. (18才—21才)(26. 2. 7. 9. 30 a.m.)

		時	分	秒	出發番號
I	Erkki Penttilä (Savon Sisu, Kupio.)	1	59	31	(29)
II	Lauri Paronen (Virolahden Sampo.)	2	03	08	(33)
III	Eino Kuvaja. (Kuopion Urheilu-Veikot.)	2	04	26	(35)

IV Eetu Rissanen ( " ) 2 04 36 (36)

V Eero Schwartzberg (Lahden Hiitoseura.) 2 09 41 (18)

参加者 41名

ジャムプ競技 (26. 2. 7. 2p.m.)

	得点	競技番號
I Thullin Thams (Ny.)	18.98	(23)
II Otto Aaasen (Ny.)	18.86	(19)
III Georg Österholt (Ny.)	18.00	(1)
IV Johan Gröttumsbraaten (Ny.)	17.67	(7)
V Y. Kivivirta (Fd.)	17.25	(20)
VI Lars Högvold (Ny.)	16.92	(40)
VII T. Reingold (Fd.)	16.88	(41)
VIII S. Usa (Fd.)	16.85	(32)
IX A. Vuorinen (Fd.)	16.63	(30)
X H. Holm (Fd.)	16.61	(34)

参加者 36名 Ny. 8名 Fd. 23名 Sd. 3名 Tsk. 1名 Ost. 1名

競技成績についての尙詳細は來年度の恐らく F. I. S. の年報に掲載されることと思ひます。以上は私共の先輩木原さんから送つて頂いたものから抜録したものです。(責廣田)

## 北歐第二信

——ストックホルムに着いて——

(南歐と北歐のスキー界、ストックホルムの北方競技大會)

ヨーロッパのスキー界を地理的に分けると南北の二つに分れる。スポーツとしてのスキーの發祥地は諸威であるが近年に至つて著しくスイスを中心として中央並に南ヨーロッパのスキー界が急速の進歩を遂げたと云へやう。そこで大體に於て温度(従つて雪質)に於て兩者に差がある上にスキー地として、南方にはアルプスの大きい山嶽があるに比して、北方(スカンディナヴィヤ)では平地が多く高山と稱すべき山が皆無である。その北歐で進歩するスキーは長距離競走(特に芬蘭の如きは陸上競技會に於ても獨歩の地位を占め、先天的に長距離に強く出來て居ると思へる國がある)とジャムプとである。大きい斜面を享樂し乍ら下ると云ふやうな所がないのである。子供はスキーをばけば小さいシヤンツェで飛んで居る。着陸のバーンを丁寧に踏み固め用意が出來ると *Solva on (Tas jaf Klau)* とドナツて愉快相に遊んで居る。之等の芬蘭の可愛い子供の中にはやがては世界のマイスターになるものもあらう。女でも廣い平地をドライシユリツトで根氣よく船でも漕ぐやうに走つて居る。それが如何にも樂し相でハタから見ても氣持がよい。兎に角子供の毎日の生活に必らずスキーがあるのである。

此の北歐では、テレマークもクリスチニアもまあないと云つて差支へないと思ふ。よく吾々の話すことがあるが、吾々が下駄のハキ方を考へたり、下駄をはいての歩き方の面倒な理屈を論じ、方式通りに歩くと云ふやうな事のないのと同じではあるまいか。そんな名を知らないでも出來るのである。自由に下駄をハケるものにとつては理屈や名稱は要らない。スキーの理屈は南歐から多く產れたものと考へてもよくはないかしら。

南歐でもスキー技の全般に亘つて進歩しては居るが、此の理屈ほい所と、スキーによつて山を樂しみ、又は冬の山にし



たしむと云ふ風が見へる。英獨の人達は特にさうではあるまいか。日本も幾らか此の種の傾向が多いと云ふのは地勢の然らしむる所で大いに賀すべきと思ふ。

南の人達が従來は長距離競走を嫌つたのは長距離競走に弱い事もあるかも知れないが、多くは理屈と山を楽しみと云ふ心持ちが手傳つてゐるものと考へられる。南北のスキー界の差を此所で強いて明らかにするつもりではあるが、ラハテイの競技會、コングレス及びストックホルムの大會を見て氣のついた事を南北の比較をし乍ら紹介をしたいと思ふ。

長距離競走は芬蘭の獨占となつたと考へても差支へあるまい。ラハテイの成績、ストックホルムの三十キロ、六十キロに於て一二等は殆んど全部芬蘭のものである。恐らくホルメンコルンでも同様な成績を勝ちうるであらうと思ふ。(ストックホルムには芬蘭の二流が出場し、ホルメンコルンには一流が来る。)

一方諾威は複合競技の十五キロで芬蘭でもまたストックホルムでも、壓倒的勝利を得て居る。之は諾威が複合競技は特に力を入れて居る事から一流の選手は皆之に出て居る事で解らう。タムスは十五キロで早くはないがそれでも中以上の成績を得て居る。

オリンピツクのスキー競技には長距離を入れる事を賛成しなかつた國は何處であるかと云ふと、不思議にも諾威であつた。今まで長距離に強かつた此の諾威が何故之をオリンピツクに入れる事を肯定しなかつたか。それは複合競技とジャムプに力を入れて居る事で分らう。長距離の中心は移りつゝあると吾々はヒソかに思ふ。

處でスキー界の重大な出來事を此處で少し述べやう。それは一九二八年のウインターオリンピックに北歐三ヶ國が選手を送らないと云ふ事だ。それはスイスにウインターオリンピックアードを持つて行く事が北歐のスキー發祥地の人には承知出來かねるらしい。何故反對か云ふにシヤモニーの次ぎには諾威にオリンピックアードをもつて行く案がまともりかけて居たからとも考へられる。此の北歐の三ヶ國の選手のない國際スキー競技は吾々にとつてはどうしても物足らない。何う考へても之は遺憾の極みだ。そのイキサツを僕は詳しくかかかうと思はない。僕が述べた理由は北歐の人達にとつて失禮ない

ゝ方で、寧ろスキーの解釋を異にした南と北が一九二八年にだけ一緒にスキー競技をやらないと云ふのか至當であらう。吾々も一九二八年のウインターオリンピック並に第十回のスキーコンGRESを諸威にもつて行かない事は残念だと思つて居るけれども芬蘭に第九回のコンGRESと國際大競技會が開かれたのであるから、南方に小なりとは云へスキー國が、澤山あるのであるから、夫等の國々にも便利な土地で開催するのもあながち悪くはあるまいと思ふ。

(諸威でウインターオリンピックが行はれるとすれば、圓滿に事が納るとすればさうしてまでも三國のスキー選手の出場を望むて居るが、事の決定したあとでは止むを得ない。)

ジャムプ(並に複合競技)で絶對の位置を保つて居るのは諸威である。何しろタムスが失敗すれば誰かしらが代りになる。又複合競技で「王様」と稱せられるハウクが奮はなければ第二、第三のハウクが居る。ストックホルムのヘツゲの如きは初日に30キロを走り翌日複合競技の十五キロに一等となり、次ぎの日に得意でないジャムプも美事にやつてのけて第一位となつた。何と云つても多士濟々である。獨乙、カナダその他の選手も出場したが目立つ程の人は一人もない。何しろジャムプでは北歐殊に諸威に最も多くよい選手が居ると考へる。之に亞いでは芬蘭、此の芬蘭は數年を出でずしてジャムプの覇權を握る事に自信を強く持つて居るから頼母しい。(山とスキー、第二年、比企氏フィンランドのスキー参照)序の事に一言附加へたい。タムスはすでに第一人者に非すと云ふ。アムンゼンが既にタムス以上になつたと云ふ。然し私にはさうは思へない。矢張りタムスは横綱格だと思ふ。と云ふ事は私の見る所では一度轉がる事が餘りに點數に影響しすぎるからかくの如きストックホルムの慘敗をタムスは經驗したものと云ふ。(タムスは最長不倒距離のカップをもらつた)だからと云つて私は點數で一等を定める事には異存ないがこんな災難で一回轉がる事があるかも知れないから、最長不倒距離(又は唯だ一回の最高點)の人は特別の賞を與へる事が至當と思ふ。タムスは(二十七才と聞く)或はもう下り坂になつたのであらう。然しまだ精氣瀟灑たる所である。私はホルメンコロンにタムスの健闘を望んで止まない。

次ぎにハウク、私はハウクの容貌を見て精悍な人となりと察知したが、十五キロでは非常に力一杯を出して居るやうに

思へたが、ジャムプでは實に勢が足りないやうに思へてならない。ラハテイでもストックホルムでも距離に於て左迄飛ばず、力に充ちた飛び方をしない。「ハウクはもうやがてオールドボーイの組に這入る人だ」さう思つて「スキ一の王様」に對しては失禮な云分ではあつたけれど新進の活躍にはなんと云つても一步をゆるる時期の來たのを痛ましく思つた。  
 (註同氏は三十二才かである。)

此所までかいてストックホルムの記録を載せないと今までかいた事が解り憎いであらうと思つて記録だけを載せやう。

### Stockholm の Northern Game.

1926年2月6—14日開催

#### 1.5 km. (複合競技)

	時	分	秒
I Olav Hegge (Ny.)	1	4	24
II Johan Grøttumsraten (Ny.)	1	6	37
III Harald Økern (Ny.)	1	9	19
V Otto Aaren (Ny.)	1	10	24
VI Thorleif Haug (Ny.)	1	10	49
VII Einar Landvik (Ny.)	1	13	06
XII Tullin Thams (Ny.)	1	17	16
XVII Paavo Nuotio (Fd.)	1	18	28

ジャムプ競技 (複合競技) (26. 2. 14. 1p.m.)

17

- I Olav Hegge (Ny.)
- II Johan Gröttumsbraaren (Ny.)
- III Thorleif Haug (Ny.)

複合競技結果

得 點

I	Olav Hegge (Ny.)	18.437
II	Johan Gröttumsbraaten (Ny.)	17.719
III	Thorleif Haug (Ny.)	17.094
IV	Einar Landvik (Ny.)	17.000
VI	Toivo Nykänen (Fd.)	16.344
VIII	Paavo Nuotio (Fd.)	15.75

60k.m.

時 分 秒

I	Tauno Lappalainen (Fd.)	5	12	12
II	S. Utterström (Sd.)	5	24	32
III	Erkki Kämäräinen (Sd.)	5	24	34
IV	Olav Hegge (Ny.)	5	26	27
V	J. Wikström (Sd.)	5	29	42

30k.m.

I	Veli Saarinen (Fd.)	2	22	55
---	---------------------	---	----	----

II Martti Lappalainen (Fd.)	2	28	31
III A. Israelsson (Sd.)	2	28	56
IV J. Gröttnsbraten (Ny.)	2	38	09

#### ジャムプ競技

I Eiling Amundsen (Ny.)	II Einar Landvik (Ny.)
III Nils Lind (Sd.)	IV W. Peterson (Sd.)
V Th. Haug (Ny.)	VI Otto Aansen (Ny.)

この Northern Game と云ふのは4年毎に Stockholm で開催せらるるものです。ジャムプ競技はフライングの規定で行はれた様です。(黄廣田)

北方競技會のジャムプは二月十四日の午後一時半から始まり、複合の人もジャムプだけの人も混つて飛んだ。試技は二回、複合とジャムプに出る人は四回になる。(註、ホルメンコルンでは人数が多いので二回以上飛ばせられない。國際の規則では少なくとも二回とあるから一日には出来ないが、決して三回飛んでその中のよい二回だけの平均を以て採點をする事はないとはオルセン氏の答へ、オルセン氏はノルウェーの規則を作つた人の一人、それに習つて國際の規則が出来た事は申すまでもない。)

飛ぶのを見てるとサツツの時手をウシロに引く人が大部分で、ハウクは僅か足部に手を平行する位まで、タムスは殆んどウシロに引かない。ジャムプを美しく、又力強く見せて呉れた人の動作を見るに、ランディングの姿勢に移るや少し前に身體が出来ただけ延びて足部がやゝ後方に突き出されるかのやうに一直線になつて力が全身に溢れるやうに見へた。よく記憶にないがアムンゼンは此のやうな動作(ワザ)をするのではあるまいか)をして居たやうに思ふ。同氏は丁度タ

ムスの前に同じノルウェーの服装で飛ぶので大變似て居るのでタムスが飛んだと思つて居ると次ぎが本物だつたりした。スキーはやゝ不そろひ。諸威のジヤムバーは手をユル／＼と振つて三回位でおちるが（タムスも然り）芬蘭のジヤムバーにはずい分早く振るのが居る。

此所のシャンツエはテツペンから見下して見ても少しも怖くない。初めは極めて緩かで、突然急になりまた徐々に緩やかとなつてシャンツエに來る。僕等にも之なら飛んでも恐怖を少しも持たないですむと思つた。シャンツエの高さは二米未滿であるらしい。最長不倒距離は三十八米で左程大きいものでない。アウスラウフが充分なのは氣持ちがいゝ。

當日はクロンプリンスの臺臨もあつて盛大であつた。晴天で温度は零下五―六度（町の温度が五度）であつた。風もない絶好の日和で各國々旗もたれて靡かなかつた。日本のもその中一つあつた。

ホルメンコルンの大會、之で誰が今年の第一人者の名を得るか定まる。それは此の次ぎの通信まで御まら乞ふ小生は伊太利の代表者 *H. S. S.* 氏と次ぎの金曜日からモラで一緒になつて瑞典の年中行事、*ヴァサ* 競走を見てオスロに行き、更にフィンゼに行つてホルメンコルンの大會までにかへる豫定です。

（大正十五年二月十六日ストックホルムにて）

# デイスタンスレースに就いて (續き)

——今シーズンを願ひて——

岡村源太郎

我國に於ては今年最初の試みであつた長距離レースは全

日本スキー選手権大會の二十五籽レース以外に、各地で行はれた地方豫選會にもそれ／＼盛んな長距離レースが行はれた。即ち一月十日沼尻の表日本豫選の三十籽レースを始めとして、十六日には大鰐の東北豫選、豊原の樺太豫選、札幌の北海道豫選及び高田の信越豫選で二十五籽レースが行はれた。

今その記録を抄録するに

沼尻	三十籽	三時間三十四分十秒(高橋君)
大鰐	二十五籽	二時間二十一分三秒(鬼柳君)
豊原	同	二時間四十分十一秒(吉岡君)
札幌	同	二時間十三分四十六秒(福田君)

高田 同 二時間十八分五秒(上石君)

豊原 (全日本) 二時間十四分四十六秒(高橋君)

優秀タイムは大抵二十五籽は二時間十分より二十分の間を往來し、沼尻及び豊原の豫選の成績以外は記録としては皆恥かしくないものになつて居る。之を今年のフィナンランド・ラハティールに行はれた國際スキー聯盟主催のスキー競技會の三十籽に比較しても、兎も角記録のみの比較でもさう問題にならない事もないばかりでなく(別頁参照)三十籽で十等であつた有名なる諸威のヘツゲの二時間三十七分十四秒(二十五籽二時間十一分の割)とは相當よい勝負をやつて居るわけである。

此處に注意しなければならぬ事は、スキーレースのタ



五十キロ競技中のフィンランド選手

先頭ウーリネン続いてネコ選手（ラハテに於て）



イムに驚くべき相異のある事である。即ち樺太の二十五籽を二時間十五分以内で走つた高橋君が沼尻では三十籽三時間三十四分も掛つて、豫選成績中最も遅いタイムを出して居る、即ちコースの状態により又雪質により、甚だレースのタイムが變化し易いものである事が之によつて察知せられるのであつて、前號にも簡單に述べておいた處である。

此の内雪質の不良による記録の變化ばかりでも全体で一割以上も影響するものである。今年北海道豫選十籽の優勝者今井君は五十分十九秒のレコードを持つて居たのであるが、二月の中等學校の大會には同じ十籽コースを五十五分二十九秒を要して然も優勝し、又三等であつた内山君の五十三分四秒のタイムは二月には五十八分臺になつて然も同じく三等を獲て居た。札幌の二月は積雪も豊富になり、コースの状態も良好になつたのであるから、豫選當時の五十分の記録は當然破られなければならない筈の所、中等學校大會當日の不良な天候雪質の爲に一割以上のタイムを延長せしめられてしまつた。

又沼尻の三十籽レース當時は雪質極めて不良となり高橋君は甚だ苦闘せられたと聞いて居り、又沼尻コースは良好なコースではあるが、割合にレコードは振はない性質を持

つて居るらしいとの話を聞いて居る。従つて沼尻の記録は最も悪いには相違ないが、その實質に於ては決して他地方豫達の成績に劣つて居ない事が想像せられる。そしてコースの状態殊に三分の一システムに従つて選んだと稱せられるコースでも、その選定の上に於ける僅かな主旨の相異が記録の上に驚くべき變化を來さしめるものである。

### コース測定に就いて

猶地方豫選のコースの記録の大なる相異を見るにつけて、コースの測定法に大いに留意しなければならぬ。殊にコースの距離の正確さが或程度まで欠けて居る事が明かである。實際今年の豊原のコースは豫選當時の二十五籽コースに比して距離に於て約半籽足らず、時間に於て約四分許り短くなつて居た。それで豫選當時のコースを走つたならば高橋君は二時間十八分位のタイムを要したであらう。又大鰐のコースは昨年大會の割にしては少し短くなつたと云はるゝ事も耳にして居る。又札幌のコースは全てが實測に従つたのではなく、地圖を頼りにした部分が少くない更に微に入り論ずるならば、精密に測定したと稱せられて居るコースでも、その測定した日のトラックと競技當日

のトラックとの間には必ず距離の相異があるに相違なく、  
飽くまで正確を保證する事は甚だ困難であらう。吹雪によ  
る雪庇の形成、小川又は簀の埋没、或は危険地の廻避等に  
よつて起る距離の變化は必ず豫想しなければならぬ。

従つてデイスタンスレース殊に長距離のタイムの相異の  
内數分位は距離そのものゝ相異からも起り得る事である。  
そして此等も前述の各地豫選タイムの相異の原因になつて  
居るわけである。

此の距離の正確不正確は、私も色々の點で或程度までは  
許してよいと信じて居たのであつて、全コースの約一乃至  
二パーセント位の誤りはあつてもよいと考へて居た。そし  
て實際にコースを測定するよりは寧ろ、地圖の上で或一定  
の法式に従つて、割合に正確に近いコースの距離を出して  
おけばよい筈である。

それは距離の僅かの長短に原因するタイムの相異は極め  
て僅かであつて、全体の上で數分の差を作るばかりである  
にも拘はらず、之よりもつとタイムに大きな影響を及ぼ  
す處の雪質、天候、地形等が十分乃至甚しい時は數十分の  
タイムの變化を來さしめるからである。即ち雪質、地形の  
相違は距離の相違に比して極めて大きな影響をタイムに及

ぼす爲に距離の正確さに對する多大の注意、努力を拂ふ事  
が無意味になり易いのである。恐らく距離の誤差によるタ  
イムの差違が最高三分位であるとするならば、雪質、天候  
の不良によつて一割五分、地形の難易によつて（たとへ  
三分の一システムに従つたコースでも）二割近くまでの差  
違が出来得るものである。

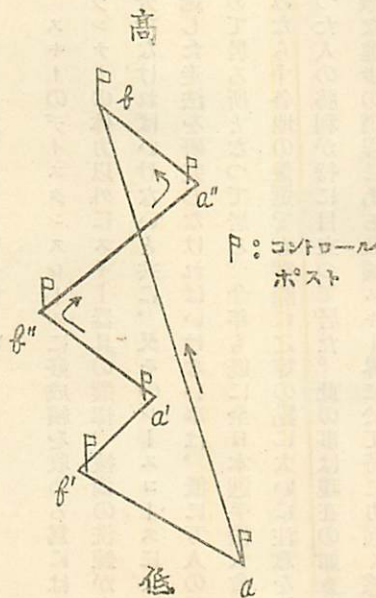
猶此處に幸ひにして歐洲スキー界の趨勢を傳へ聞くに當  
り、コース測定は圖上を以て行つて居る事を知り、或程度  
までのコースの不正確さは許され得べき事である事を確信  
し得た。之が延いては歐洲のデイスタンスレースレコード  
と我國のそれと比較するに就いても、以前よりは少しく異  
つた態度を持てるやうになつた。

木原氏が傳へられたコース測定に對する回答は、コース  
の測定は五十軒以上でも以下でも地圖の上で測定したもの  
を實際に應用して居る。唯平地コースは實際に測量をやつ  
て居るらしい。斜面の距離測定法は或一定の法式に従つて  
計算して割合に正確な値を出して居ると云ふやうな意味で  
あつた。之によると歐洲のコースもその嚴密な正確さを論  
ずるならば、從來我々の考へた程に距離に對して信用はお  
けない事になるのであるが、此の不正確な事はスキー界一

般に黙認してよいやうな状態になつて居るわけである。そして記録比較等の場合には距離の僅かな相異よりも雪質、登降平地の三斜面の選定法によるコースの状態の差違の方が遙かに重要な意義を有して居る爲めに、他の陸上や水上競技には絶対に許されない粗雑な距離測定法が許され得る事になつて居るらしい。又長距離の實測が甚だ多くの勞力を要する事も地圖を基礎として測定する事の便法を採るやうにせしめた大きな原因であらう。

然しながら如何にスキーレースのコースは全く正確でなくともよいとは云ひながら、程度を過ぎるは大いに戒むべき事で深く注意しなければならぬ。昨年の大鰐のコースは早大の人々の實測によつて距離の非常な不足が発見せられたと聞いて居る。又昨年の札幌コースも全てのコースに就いて大略一割以上の距離の不足があつた。爲めに我國選手としては驚くべき好タイムが出て、他地方の選手で非常な脅威を感じられ且迷惑を蒙られた人も少なくないと思ふ。かゝる甚しい誤りは絶対に避く可きであつて、將來圖上測定法を多く用ふるものとするならば、よくその方法を研究しなるべく距離の正確を期すべきである。然し實測は確かに價値がある方法で、その暇を持つ場合は理想的な方法で

ある出来得るなら圖上測定は長距離コースの實測困難なる場合にのみ行ふ方法としておきたいものである。圖上測定の方法も色々あらうが、之は又別に述べる機会があらう。猶コース測定或は選定に當つて注意すべき事は電光形登行をするトラックに就いてである。即ち圖に於てaよりbまでの登行斜面をab間の距離を測つて之をコース距離の



一部とするか、或はa'b'a''b'の如く電光形に登らせてそのトラックの通りに距離を測るかである。そして之は急な登行面で問題になる事であるが、今年の大鰐のコースは大体後者の方法を探り、昨年の大鰐のコースは前者の方法に従つて居たやうである。

此の兩者を比較するに色々な論が出て來るのであるが、差し當り後者は距離の測定は少し困難であるが、距離とタイムとの關係は甚だ良くなるわけである。今年の樺太の地形が割に困難であるにも拘はらずタイムが優秀であつたのは、一つは此の後者の方法に従つたコース選定測定法、即ち比較的トラックを緩く登らせると云ふ趣意があつた爲である。即ち開脚登行を余り行はせないやうになつて居り、之が比較的長いスキーを有利ならしめ、登りのスピードを高めて従つてレコードを良好ならしめたわけである。

此の電光形の程度は豊原コースは割合に適宜になつて居たと思ふ。そして此の電光形の取り方は實際の經驗あるスキー家が注意してやつて頂きたい。且つ登行斜面の急峻であるコースでは、此の方法がレコードを良好ならしむるに大いに役立つものであるから、今後のコース採用に際しても可及的此の手段を一般に用ひたいものである。

此の後者の方法も歐洲で可成採用せられて居るらしく、何處でも余りの急坂を縦に登る事は避けて居る事が想像せられる。(豊原コースには後者の方法に準じた部分が四ヶ所の登りに在つた)我國の如き急なスロープの多い所ではコースの状態を外國のそれに可及的似させるには、電光形

登行の選定法、下降斜面の配置に充分なる研究をする必要がある。そしてデイスタンスレースの記録をなるべく優秀なものにして、ランナーの体力の徒費を少からしめ技術的方向の結果を一層良好ならしめたいものである。

### 体力の優劣

スキーのデイスタンスレースに好成绩を収める爲には、ランナーの体力以外にスキー器具の選擇、技術の洗練が充分でなければいけないと共に、又そのレースコースによく適した走法を研究しなければならない事は、既に万人の認め居る所となつて居る。今年も既に全日本選手權大會のみならず各地の豫選でも實際に之等の點に大いに注意を拂つた人の勝利が特に目立つて居た。此の事は現在の如き急激な進歩の道程にある我國スキー界に於て特に力強く感ぜられる事で、一年でも早く新しい好い方法或は技術スキー器具を獲た人が、勝利に對し最も縁が近い事になつて居る。従つて古くから各地の競技會で鍊り上げられ、幾多の苦い經驗を嘗めて技術其他の研究に大いなる努力を拂つた人々が大部分立派な成績を擧げて居る。そして体力が勝利に影響する割合は、他のスキー以外の競走に比してまだ、少

いと思ふ。

然しながら何と云ふてもデイスタンズスレースでは体力の優越が即ち競技の優者となる事は争はれない事實である。之は我等のレーステクニクが殆ど理想に近づき、其の他の状態が愈々垢抜けして行くにつれて愈々その色彩が濃厚になつて行くものであると思ふ。

技術を超越した獨特の体力による強みが次第に頭を擧げて來るに相違ない。それは今年の國際スキー競技又は他の有名な競技會に於けるデイスタンズスレースで、フィンランド選手が壓倒的勝利を占めつゝある事によつても裏書されて來たやうである。古くよりジャムプと共にデイスタンズレースにも世界獨歩の地位にあつて確固として選手權を保持して來たノールウエーも、そのデイスタンズスレースに於ける覇業は漸く壞れかゝつて來たのではあるまいか、即ち陸上競技でも驚くべく彼等の体力を以て世界選手の脅威の的となり、有名なるコーレマイネンとか、近くはヌルミ、リトラの超人を出したフィンランドが、次第にスキーの長距離にもその偉大なる体力の猛威を揮ふに至つたものであると考へられる。

即ち我國もスキー界の充分なる進歩發展の後には、やが

て殆ど小細工を許さぬ体力を主とする競技が行はれるに至る事が想像せられ、又早くその時期の到來せん事を願ふ次第である。その時こそ我が國選手も眞の實力の戦を以て國際選手の間立つて進む事が出來よう。

要するに之等の事實は次のやうな事に我々が努力すべきであると云ふ事を考へさせてくれる。即ち來るべき將來の日本選手の充分なる活躍を得させる爲に、我々は比較的當面の利を捨てゝまでも、デイスタンズスレースの根本的研究に力を致し我々の貧弱な体力の最善を盡しての記録を作つて行き、且つ毎年貧しいながらの收穫を益々實質的に進歩せしむべく努力すべきである。かくして所謂日本の世界選手養成の基礎を作つておいたならば、一朝スキー界の天才が現はれた時には、直ちにその人の非凡の体力、技倆は直ちにその目的を達せしめ得られるであらう。体力優秀者の確然たる勝利を得るまでの経過がなるべく短くあつて、日本のスキー界が國際間に燦とした光を放つ時の一日も早からん事を希望する。

### 長距離レースの反對に就いて

体力がデイスタンズスレースで極めて重要な位置を占めて

居る事は、三分の一システムに従つて居るコースに於けるレース許りで無く、下降斜面を多く含めてある所謂下降競走の場合にも明かに認められてある事實である。下降競走に優秀な成績を示した人は大抵三分の一システムのコースでも、美事な技術と絶倫の体力に依つて立派なレコードを作つて居る。その最も明かな證例として一昨年の高田の所謂下降レースで強かつた所の、矢澤(四キロ勝者)、高橋(一キロ)、永田(四キロ)、秋野(一キロ)、吉田(十キロ)の諸君が今年の樺太の全日本大會或は地方豫選で極めて優秀な成績を示して居る。又之等の他の選手でも下降レースに強い選手は合理的練習を積みさへすれば三分の一システムの長距離レースにも恐らく相當美事な成績を収める事が出来ると思ふ。

此の事實は他の種々の煩雜な問題を考慮に入れなくても下降レースにせよ三分一システムのレースでもその競走の優者となるには不斷の合理的技術の攻究と最高の効を奏すべき体力の修練が必要である事を感じしむるものである。即ちデイスタンスレースの練習の要點は、英國式の下降レースでも一般的のスタートとゴールを同様高におくレースでも、何れも殆ど變りの無い事が察知せられ得る。之が嘗

てアーノルドランが本誌に寄せられた長距離レースに對する反對論の論點の根據を大いに危くして居るわけである。

全日本選手權大會の勝者の名を連ぬるに當り、下降レースも三分一システムのレースも共通に強い選手の少くない事を知り得られる今日、我國では長距離競走の意義を論ずるに當つて、ランの最近唱へ居るやうな事情は成立して居ないのである。猶此處にランの所説を可成根據なきものとする諸點を見出し得らるゝのであるが、恐らく我國の眞面目なるスキーレーサーは彼の説の全てに贊意を表する事はあるまいと思ふ殊にノールウエーの練習規定にはデイスタンスの技術の解説に全然觸れる事なしに、練習方法のみについて云々してあるこの理由で、デイスタンスレースはスキー技術の競走ではなく、全然肺と心臓の戰である。ダウエルラウフはパウエルラウフ(百姓競走)であるともまで云ふに至つては誠に憤慨に耐えぬ處であらうと思ふ。

我々は飽くまで北歐スキー界の眞義を尊び、たとへ百姓競走と云はれても屈する事なく、益々長距離レースの技術の練習と体力の修練に力を致すべきであると信ずる。少くともランの説に全然贊意を表する事は絶対に反對したい。唯今後のデイスタンスレース界の趨勢の方向に就いて二様

の方法を取るべきではないかとの暗示を受けておくに止めたいと思ふ。

猶此處に注意すべき事は之等の長距離競走が徒らに、單なる觀衆の興味をそよる道具位に考へられて居るのではあるまいかと危惧の念の抱かるゝ事である。それが引いては恐らく長距離を走つた経験のない、長距離レースの何物たるかを眞に了解して居らないらしい。ラン及びその一派の主張を高めしめてしまつたのではあるまいか。かゝる種類の事柄がよく各地の競技會までも侵害を與へて、その結果

不合理なる下降コースが見物人本位に選定せられて全く記録或はレーステクニクを考慮に入れないやうな事になつたり、或は素人眼のみを樂しませんとする傾向が動もすれば起り勝ちで實際のルール或は本質的技能を主とした策戦が排斥せらるゝに至る事がまゝ有り得るのである。

深くスキー界の歴史的或は國際的關係に頭を突込んで、眞の意味に合理的な競技が盛んになるやうに努力し、又充分なる研究を基礎として智識の交換を圓滑にしたいものがある。

## ストツクホルムへの船中にて

在フィンランド

今

泉

剛

一

丁度エフ、アイ、エスの競技會が始まつて居る最中にストツクホルムではノーザンゲーム（四年に一度のウインタースポーツ競技會）が開催されて居たのだ。併しスキーは

十二日からあるので芬蘭からはそれに選手を送り、そのまゝホルメンコルンの方へも加入する事になつて居たので彼等と起臥を共にして見たいと其の同行を約した。七日に競

技會か終るとその晩ラハテーを出發した。(木原氏もヘルシンキイ迄同行、氏は次の便船で來らるゝ筈)

オボから船に乗り込んだのは九日の夕方であつて、その船はエフ、アイ、エス關係者のみが買切だと云ふてもよい程それに關係した者ばかりいつぱいだつた。

結水の爲めに(普通は十六時間)二晩船中で暮さねばならん事によぎなくされたけれども反てそれが幸だつたかもしれぬ。

船が出帆してサロンではもう蓄音機が鳴り出し二組三組とダンスが始まつた。隅ではトランプをして居る者もある禁酒から解放された喜びにもう酒を呑みだして居る者もある。

タムスもそのグループに居るではないか。まさか彼は酒は呑んで居るまいと思ふけれども、彼の前のコップには黄金色した濃厚の液体がみたしてある。彼は煙草を喫する興盡くる事なかつたこゝも九時が鳴り出すとポツ／＼各選手は自室に引きあけて十時にはもう一人も残つて居らんかつた。中老以上の者のみが歡樂の後を追ふと云ふ恰好であつた。

タムスは依然として談笑して居る彼の顔は酒の爲めに赤

くいろどられて居る。

肩に手を置いた者がある。見れば芬蘭のマネジャー、バルモロスであつた。彼は目をタムスにみはりつゝ「完全に長距離界を征服して芬蘭は數年ならずして世界のジャムブ界をも征服してみせる」と豪語した。十時半バルモロスに促がされて寢室へしりぞいた。タムスは依然としてまだサロンの一隅を陣取つて居るであらう。

現在他の追従を許さざるタムスをのぞいては芬蘭の選手と同一のレベルに於てノルウエー選手は争ふて居るのである。新進 Einar Amundsen と雖彼はまだ未効の者である。芬蘭にはヌカネあり、ノートヨはその技益々圓熟して來て居る。而もタムスは年既に廿六才を迎へた。彼の取るべき途は今後攝生に依て一日も長く彼の生命を保ち彼の後繼者を待つにあるのではないだらうか。彼は現在あまりに美名に酔ひすぎて居りはしないだらうか。而して彼はあまりに又美男子である。それが何れにあるとしても一度彼がジャムブする時は觀衆はこそつて拍手を措しまざる有様である。此の猛者が何時迄續くであらうか。ベットに入つたバルモロスのノルウエーのジャムブ界を論じ世界のジャムブ界を説き今後の芬蘭の取るべき計畫等その盡くるところ



なかつたが、何時しか夢に入つてしまつた。翌朝無理にタキ起された。時計は八時である。

選手はもう服を着換て居た。彼等の日課である朝の運動が始まつた。彼等は(芬蘭・ノルウェー(タムス外二、三を除き)皆オーミングアツプを始めた。それから甲板を走り出した。十分、二十分、三十分等しく休まずに走りその後は自室にひきあけて(芬蘭)五分位交互に腰部と脚部をマツサージしあつて初めて朝のカツフェーを取る事となつた。今晚はともストックホルムへは到着しまいとこの事だ。選手連中は思ひ／＼にサロンで遊び出した。甲板で遊んで居る者もある。一時半に朝めし(日本の晝めし)三時頃になつたら芬蘭の選手は一人も遊んで居らるので、どうした事かと思ふたら、彼等は自室で申し合せた様ふに晝寝を始め居るのだ。五時になつて漸く起き出して來た。七時に晝めしを食ふ事になつた。明朝は早いと云ふので選手連中と一緒に九時にひきあけたが彼等は寢る前に十分位を朝と同様にマツサージしあつた。十時にはもう寢息を立てゝ居る。

彼等の夢は王様カツプだらうか。それともフランスカツプの夢だらうか。(二月二十日)

## 彙報抄録

### 第二回全國中等學校ス

#### キー選手權大會成績

已にアサヒスポーツ三月一日號其他に公表せられたるが如く、本大會は東朝社主催北大スキー部後援の下に左の如き順序にて舉行され、目出度く終了せり。

場所 北大スキー部ジルバアシャンツエを中心

時日 大正十五年二月十四日

参加校 札幌十一校参加人員六十六名

競技種目 十籽デイスタンスレース、ジャムプ競技

競技規定 本大會競技規定による。

天候、午前良好、午後寒冷東南風強し。

#### 成績

十キロレース

第一位 今井誠一君(樽商)

五五分二九秒

第二位 中山俊豪君(同上) 五七分三六秒

第三位 内山良夫君(樽水) 五六分〇八秒

第四位 木村義男君(北中) 五八分一九秒

第五位 本間四郎君(樽商) 六〇分一三秒

第六位 栗谷川平五郎君(札一中) 六〇分五六秒

各校得點 樽商十九點、樽水五點、北中三點、札一中一點

ジャムプ成績

第一位 長尾雄治君(樽商) 一七點五一

第二位 菊地 昇君(北商) 一六點二〇

第三位 四谷勇治君(樽商) 一四點一九

第四位 安達吉次君(樽中) 一二點一八

第五位 友重伊勢吉君(樽商) 一一點六四

第六位 高松滿洲雄君(札鐵) 一一點六三

最長不倒距離一九米七〇、安達吉次君作る

各校得點 樽商十七點、北商七點、樽中三點、札鐵一點

優勝成績

斯くて小樽商業は兩競技得點合計三六點を得て優勝し本年度全國中等學校スキー選手權を獲たり。

カナデイアンロツキ

登山講演會

世界の山岳史上に美しい記録を残して我等日本民族の爲に一つの誇りを持たせて下さつた、横さん一行のカナデイアンロツキ行の登山講演會も已に歸朝後各地に於て催されました。北海道でも一行の重鎮三田幸夫君と岡部長量君が去る二月末來道され次の如き日程で各地にて講演されました。

三月二日 於函館市寶小學校

三月四日、五日 於札幌時計臺

三月六日 寫真展覽會 札幌時計臺

三月七日 於小樽市 小學校

三月十一日 於鹿ノ谷俱樂部

北大スキー部春季休暇

山岳行

一、槍ヶ岳(日本アルプス) 三月廿四日東京發、向ふ十日

間の豫定。

メンバー、伊藤、和辻、澤本、小森、井田、須藤

一、夕張岳 三月廿日より呈ふ四日間の豫定。

メンバー、宮澤、西川、野中、原

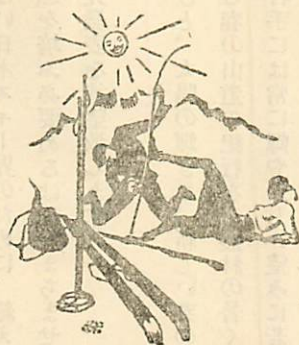
一、北見峠 夕張岳よりの歸途。

### 寄 贈 圖 書

キヤムピングの仕方と其場所 鐵道省發行

筆者は先に「スキーとスケート」及び「スキーを穿く人の爲に」を編纂されて定評ある茂木鎮雄氏である。この深く且懇切な研究に得る所非常に多いであらう。

(東京市麴町區永樂町東京驛内日本旅行文化協會發賣)



## 編輯後記

◇ 今四月號には特に、北歐の國際スキー大會及び F. I. S. のコンGRESS に關して木原さん、今泉さんから非常に參考なる玉稿を頂きました。

此處に公表させて戴くことに致しました。

◇ CONGRESS は大分問題があつた様ですが、其の万事の真相が尙不明であります。私共は先づ玉稿を精讀して又歸朝されてから悠つくり真相をお聞きして、我が國のスキー界の爲に奉仕したいと思ひます。否私共のみの考ふべきことではありません。勿論多くの方々からも熟考して頂きたいと思ひます。(廣田生)

◇ 三月、四月と云ふ學校の決算期をひかへ、それが忙ただしい中に過ぎて行けば、春の山、春の合宿、學校の見學旅行等々で不本意乍ら雜誌發行の期日が遅れ勝ちでした。

大方の御海容を願ひます。

◇ 市街地、近郊の雪は目に見えて融けて行つて、雪を求めんには山の懷へ入らなければと云ふ春の季節になつて来ました。年々共によるこぼしい隆盛の途を辿りつゝあるスキー競技も、その跡に多くの問題、暗示を残して今シーズンの幕を下ろしました。しかし、亦暫らくの間、バーンの雪に親しむ事を得ないとしても、遂には世界的に活躍しなければならぬ日本スキー界のために、絶えざる研究努力と燃える闘志を培ふ必要あるは論をまちません。皆様の眞面目なる研究發表を待望致します。

◇ 亦、

残雪の匂ひと、太陽の輝きと、新しい芽の出る黒土を人に感じさせる春の山道の紀行を。叢林の暑くるしい、草いきれとその行手には常に輝やかしい望みに若き心をひたすらならしめる嶺々が聳へてる、それら山々の紀行を。嵐の山の、晴天の山の、岩ある山の、そんな紀行研究をも惜しまず寄せられる事を。(相川生)

スキー並 附屬品

製作 販賣

••(呈カタログ)••



札幌

小谷運動具店

電話 一五六八番  
振替 七九六四番



優秀なるレコードは  
優秀なるスキーに依る!!

ス界第一  
大量製産

ツバメ印スキー

全国有名店に有り

製造元 札幌市

中野商店

スキー部

GET SUPERFINE SKEES.  
AND MAKE AN  
EXCELLENT  
RECORD



優秀ナルスキート其用具

小 樽

梅 屋 運 動 具 店

テ於ニ會覽博藝工産畜回二第  
領受牌金賞等一



# 靴一キスと靴山登

角目丁四區郷本市京東

## 店靴屋田太

番二一七四小石話電

番七二一六京東替振



◆山とスキーの會は北海道帝國大學文武會スキー部の有志が、此の雜誌を發行する爲に作つてゐる會です。

◆スキーを研究せられる人、登山に興味を持たれる方が一人でも多くお讀み下さることをお願いいたします。

◆山岳及びスキーに關して何なりとも御寄稿下されんことをお願いします又印畫の御惠送を切望致します。原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、。を一字とし、行を更めるときは一字下けること。

◆記事中の數量は全て、C・G・S系によられん事を望みます。

◆雜誌代金に就て一應下記の諸項を御承知下さい。

◆本會より發する電信略號を「ヤマ」として居ります。

### 定 價 金參拾錢

\*前金御申込か、現金でなければお渡しいたしません。

\*御送金はなるべく振替にてお願い致します。

\*六冊分前金拂込の方には送料を頂きません

\*前金の切れた時には最後の分の包装にその旨記します。次の御送金あるまで配本を見合せます。

\*本誌は營利的の刊行物ではありません。紹介、縁故の有無にかゝらず雜誌の代價は頂きます。

大正十五年 三月廿八日 印刷  
大正十五年 四月一日 發行

(毎月一回一日發行)

編輯者 相 川 正 義

印刷兼 發行者 廣 田 戸 七 郎

札幌市北一條西二丁目

印刷所 札幌印刷株式會社

札幌市北六條西六丁目

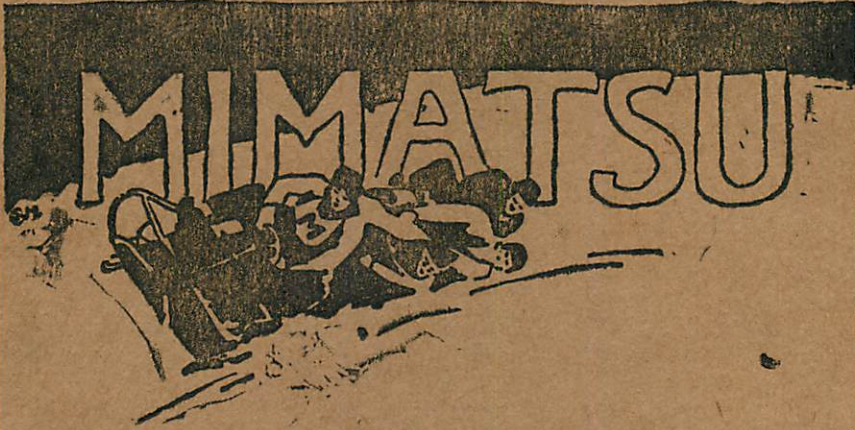
發行所 山とスキーの會

振替口座水樽八四九五番

La Gazeto  
de la  
Monta kaj Skia Klubo

No. 59. Aprilo 1926. Sapporo. Japanujo.

The Leading Winter Sport House,



美滿津特製

慶大山岳部、學習院山岳部、早大スキー部  
一高スキー部  
帝大山岳、スキー部御用

スキー及びビンディング

ポッフスレー

スレッチとトボーガン

スノーシュウ



冬期登山用具各種  
ウキンター・キャンピング用具  
フキギユア・ホッキー・スピード  
スケート  
アイス・キャット等

合名會社

美滿津商店

東京・本郷・赤門前  
電話(小石川)八四五・二〇七一

大正十五年七月二十七日第三種郵便物認可  
大正十五年三月廿八日印刷  
大正十五年四月一日發行

山とスキー 第五十九號

定價參拾錢